

地域おこしのプロフェッショナル 仕事の流儀

vol.6 士幌町 古茂田 紫乃 さん



~PROFILE~

士幌町 古茂田 紫乃 さん

出身：札幌市

前職：青年海外協力隊(ザンビア共和国)

趣味：海外旅行、温泉&サウナ

1 地域おこし協力隊になったきっかけは？

大学卒業後、青年海外協力隊として海外で活動したいという気持ちがあったのですが、業務経験がないまま応募しても、現地ですることが限られると思い、まずは札幌市の旅行情報誌の会社に入社し営業職を経験しました。

20代のうちに海外に行きたい気持ちもあり、青年海外協力隊への応募を機に約4年間務めていた会社を退職し、アフリカのザンビア共和国で2年間、小規模農家の収入向上のため、稲作の普及に携わりました。

帰国後、民間企業で働くことも考えましたが、日本にも協力隊という制度があることを知り、地域おこし協力隊に興味を持ちました。

当時士幌町では、外国人技能実習生のサポートに関わる任務や、地域の国際交流事業の推進、町立農業高校との連携などに取り組むことができる協力隊を募集していました。

私が青年海外協力隊でザンビアにいたときは、大変なこともありましたが現地の方のあたたかい対応のおかげで楽しく2年間を終えることができたので、自分が外国人として海外で暮らした経験を活かし、**町内の外国人技能実習生にも、士幌町を第2の故郷だと思ってもらえるような取り組みをしたい**という気持ちがありました。

また、士幌高校が中央アジアのキルギスという国と交流をしていたので、そういった若い世代の国際交流のサポートにも携わりたいと思い士幌町への移住を決めました。



▲馴染みのない稲作に果敢にチャレンジしていただいたザンビアの農家さんとの一枚

2 日々の活動内容や活動を通じて感じていることを教えてください。



▲放課後の時間を利用して、商品開発に興味のある女子生徒グループと活動しています

現在の活動では、土幌高校との連携に関することをメインに行っています。土幌高校の生徒が「道の駅ピア21しほろ」や土幌町農業協同組合と共同で商品開発をしているので、その活動のサポートに入っています。他には、土幌町の「シーベリー」という栄養価の高い果実をきっかけに、共通の特産品を持つキルギス共和国と交流があり、土幌高校とキルギスの農業高校の生徒がオンラインでお互いの活動を発

表しあう活動が始まっています。令和3年度からはJICAの事業で3年間の交流を行うことになったので、連携先のキルギスの学校から生徒さんを招いて土幌高校と授業を行うなど、町民と交流できる内容を企画中です。オンラインでの交流ですが、回を重ねるごとに土幌とキルギスの生徒さんが互いの活動に興味関心を持ったり、異文化交流を楽しんでいる様子が見られ、そういった場面に立ち会いながら私自身も楽しくコーディネートできています。

また、町内に80名弱いらっしゃる外国人技能実習生が参加できるイベント開催も行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり今年度は実施できなかったため、次年度は状況を見ながら随時企画していきたいと思っています。

3 土幌町の魅力について教えてください。

最大の魅力は、ちょうど良い距離感で私たち協力隊と関われるよう、優しく気遣ってくださる町民の皆さん。相談にも親身になってくれますし、「こういうことをやりたいです！」と声を上げると、耳を傾け協力してくださる方が多く、とても居心地がいいです。また農業に関わる仕事をしていなくても、自然と農業に触れられる環境も魅力の1つだと感じています。町特産の「ジャガイモ」の品種は、生食・加工用併せて実は15種類以上もある！など、今まで知らなかったことに触れられる喜びがあります。



▲人口よりも牛の頭数が圧倒的に多い土幌町。「しほろ牛」というブランド牛になる雄牛の去勢体験をさせていただいたことも